

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<18>

非常持ち出し品・備蓄品の準備

【非常持ち出し品と備蓄品】

非常持ち出し品は、個人(家族)が避難生活をするにあたっての必需品のことであり、避難行動に支障を起さないように、必要最小限のものを準備します。

一方、備蓄品には2種類ありますが、個人や地域で行う備蓄品としては、地域の孤立やライフラインの停止、物資の入手困難などに対する備えであり、当面家族が3日間耐えしのげる程度の物を自宅や地域で準備します。また、行政の行う備蓄品は、避難者に対し、おおむね3日間の支援を行うためのものであり、市町や県が分担し、現物備蓄や流通備蓄で準備す

るものです。

【非常持ち出し品の準備の考え方】

非常持ち出し品は、何を、どの程度準備すればよいのでしょうか。最近、ストアなどでも販売していますが、それを買っておくだけでは不十分です。非常持ち出し品は、「自分の家族が避難生活をするためのもの」であり、それぞれの家庭で事情が異なります。

まず、わが家の家族構成と日常生活を考えましょう。人数、赤ちゃん、お年寄り、無事は避難所に行くことが先決ですので、避難行動に支障を起さない量、重さに

することが大切です。男性で15歳、女性10歳程度が目安と言われています。そこで、「家族全員で、2〜3日の小旅行をするときの持ち物」を考える要領で準備してください。常備薬などは忘れやすいので、サンプルの一部を入れておくこと便利です。また、避難所は夜でも電灯を消しません。耳栓やアイマスクがあれば便利です。

次に、どこに、どのように準備すればよいかというと、両手の自由が確保できるよう、リュックなどに入れ、すぐに持ち出せるところに準備しておきましょう。また、通帳・印鑑などは、リュックに入れて玄関においておくわけにはいきませんので、物の性質に応じて、区分して準備すると便利です。

もう一つ大切なのは、定期的に持ち出し品の点検・交換をすることです。ここで、子供用の身軽なリュックを準備する(子供さんの必要なものを詰める)ことをお勧めします。大人が持つ量が減り、子供の防災教育にもなります。

用意しておきたい非常持ち出し品(1例)

※家族の状況等に応じ、下記から取捨選択

食料・飲料水	非常食(乾パン、缶詰等) 非常用飲料水(ペットボトル等)	
衣類等	下着(1〜2組)、靴下、タオル、軍手	
救急医療品等	消毒薬、脱脂綿、包帯、マスク、傷薬、ばんそうこう	
乳幼児がいる場合	粉ミルク、哺乳瓶、紙おむつ	
お年寄りがいる場合	常備薬、紙おむつ、(杖)	
貴重品等	現金、印鑑、証書類、預金通帳等、(クレジットカード)	すぐに取り出せるところにまとめて保管
その他	懐中電灯(電池)、携帯ラジオ、ナイフ、缶切、紙コップ、携帯トイレ、生理用品、充電器(携帯電話用)、筆記具(メモ用紙)、ラップ、新聞紙、大小のポリ袋、ウエットティッシュ、ガムテープ、耳栓、アイマスク、ヘルメット(防災頭巾)	下線部は、阪神・淡路大震災時の避難生活に際し、役に立ったと評価された物

▽【次号のテーマ】

次号では、「歴史に学ぶ『稲むらの火』」